

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成22年8月2日（月）～8月8日（日）〔平成22年第31週〕の感染症発生状況

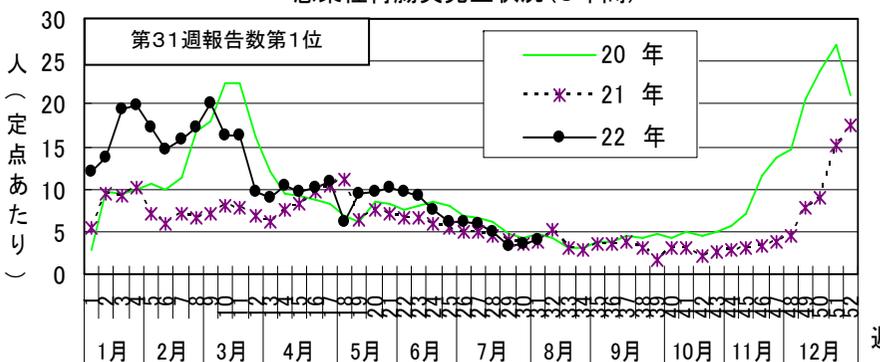
第31週で報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)手足口病でした。

感染性胃腸炎は定点あたり4.09人と前週（3.44人）に比較して患者数は増加しております。区別では高津区で最も多く6.20人となっています。

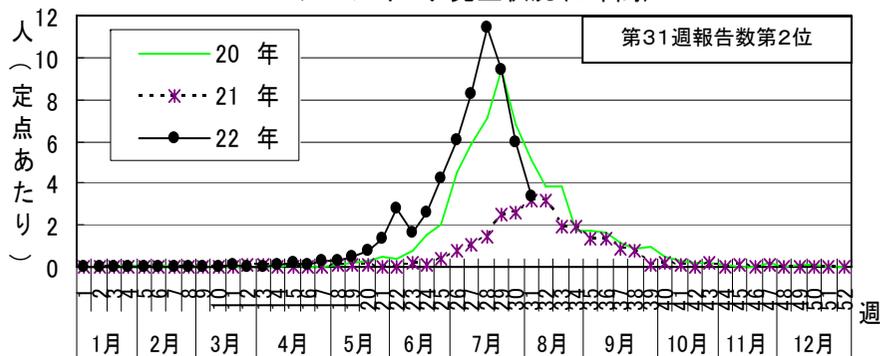
ヘルパンギーナは3週連続で減少しており、定点あたり3.41人となっています。

腸管出血性大腸菌感染症の届出が4件（うち3件は食中毒事例）ありました。川崎市において7月以降、患者の報告が多くなっています。今後は食中毒を含めた感染性胃腸炎や腸管出血性大腸菌感染症への対策が必要です。

感染性胃腸炎発生状況（3年間）



ヘルパンギーナ発生状況（3年間）



## 0157を逆さに読むと・・・！？



逆さに読  
むと・・・

0157(オ-イヅ`ナ)

7510(ナヅ`イゼ〇)

75℃ 1分 で 〇個

夏は、気温と湿度が高いため腸管出血性大腸菌（O157）などの増殖が盛んになります。そのため、夏は食中毒が発生しやすい季節といえます。

O157などの食中毒菌に感染しないためには、十分な手洗い・食品の衛生的な取扱い・加熱等が必要です。細菌を死滅させるための加熱は、細菌の種類にもよって異なりますが、75℃1分が食中毒予防の一つの目安です。温度と時間が重要なので忘れないようにしましょう。

覚え方を左に掲載しましたので参考にしてください。O157を逆さに読むと・・・「75℃1分の加熱で細菌〇個」とすれば覚えやすいですね。ただし、食物の表面でなく中心部まで加熱する必要がありますので注意してください。

### 夏期にかけて全国的に患者数が増加しています！

全国的にも夏期にかけて患者数が増加しており、平成22年は8月1日までに1712名、第30週は129名の報告がありました。

2009年のデータでは、感染者は0～4歳がもっとも多く、5～9歳がこれに次いでおります。有症者の割合は男女とも若年層と高齢者が高く、30代、40代、50代では無症状の方が多い状況でした。したがって、高齢者や乳幼児など抵抗力の弱い方は、レバー等の食肉を生で食べたり、加熱不十分な食肉を食べたりしないようにしましょう。

また、腸管出血性大腸菌感染症患者のうち、例年3～4%の患者が溶血性尿毒症症候群（HUS）という症状で重症化することがあり、HUS発症者の8割以上が15歳未満のため、若年層は特に注意が必要です。



手洗いが重要です！